

# 令和7年度 授業アンケート(学生による授業評価) 報告 (大学)

東海学院大学 教育研究開発センター

東海学院大学では、授業改善および大学全体の教育の質向上を目的として、平成16年度より「学生による授業アンケート」を実施してきました。学期毎に各教員が担当する科目の学生を対象として無記名調査を行い、授業方法に加えて学生自身の学習への取り組みを評価する項目を設けています。

令和7年度の授業アンケートでは、実施期間を第6週から第14週まで拡張し、授業の特性や実施状況に応じて柔軟に実施できるよう運用を見直しました。この見直しは、従来の「学期中に授業改善へ反映する」という目的に加え、「学期全体を通じた授業評価を次年度の改善へ活かしたい」という教員からの意見を踏まえて実施したものです。

令和7年度前期の専任教員担当授業における全体回答率は79.6%(有効回答数3,737)でした(表1)。後期の専任教員担当授業では、全体回答率74.6%(有効回答数3,787)となっています(表3)。回答率は例年通り高い水準を維持しており、学生の授業への関心や協力姿勢がうかがえます。調査結果に基づき各教員が授業改善に取り組み、各教員は学期末に授業改善の振り返りを行い、次年度以降の改善方針を整理しました。

## 授業アンケート回答学生数および回答率

### 【令和7年度前期】

表1 専任教員担当の授業

授業種別	授業数	1授業あたりの回答学生数(平均)	履修者数に対する回答率(平均)
講義	92	30.7	78.5%
演習	41	13.4	80.6%
実験・実習	15	24.1	87.6%
全体(計)	148	25.3	79.6%

学生の有効回答数:3,737

表2 非常勤教員担当の授業

授業種別	授業数	1授業あたりの回答学生数(平均)	履修者数に対する回答率(平均)
講義	27	27.3	69.5%
演習	11	15.6	83.1%
実験・実習	3	21.0	78.8%
全体(計)	41	23.7	72.1%

学生の有効回答数:973

### 【令和7年度後期】

表3 専任教員担当の授業

授業種別	授業数	1授業あたりの回答学生数(平均)	履修者数に対する回答率(平均)
講義	96	29.9	72.8%
演習	37	15.1	77.7%
実験・実習	20	18.1	85.3%
全体(計)	153	24.8	74.6%

学生の有効回答数:3,787

表4 非常勤教員担当の授業

授業種別	授業数	1授業あたりの回答学生数(平均)	履修者数に対する回答率(平均)
講義	25	20.7	64.0%
演習	8	15.3	68.9%
実験・実習	4	24.0	80.7%
全体(計)	37	19.9	66.6%

学生の有効回答数:736

専任教員担当科目の質問項目別平均によると、前期・後期ともに同様の傾向が見られました。

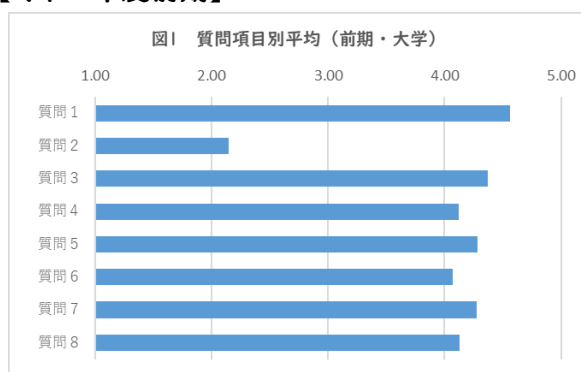
教授方法については高い評価が継続しています。「授業で重要なポイントが示されていた(質問3)」や「聞き取りやすかった(質問5)」といった項目は、令和5年度・6年度から継続して高いスコアを維持しています。これは、本学教員が「分かりやすい説明」や「教材構成の工夫」を安定して実践できている成果と言えます。

また、授業内容の有用性についても肯定的な評価が多く見られました。「授業内容は自分にとって有用性が感じられた(質問7)」という項目も肯定的な回答が多く、将来のキャリアや専門性の向上に結びつく授業運営がなされていることが示唆されます。

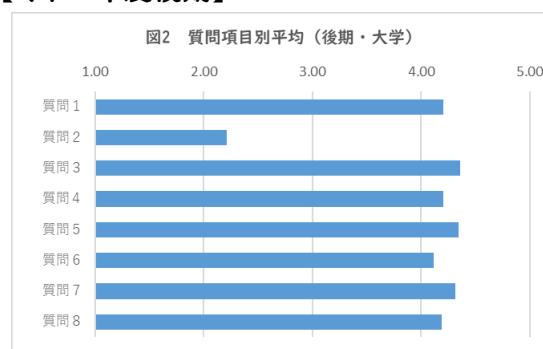
一方で、授業時間外学習(予習・復習)については継続的な課題も見られました。「予習・復習、レポート作成などに費やした時間(質問2)」は、依然として他の項目と比較して低い数値に留まっています。平均学習時間が「30分以上1時間未満」という傾向は過去3年間変化しておらず、学生の能動的な学習を促すための仕組み(LMSを活用した事前事後課題の提示や、反転授業の導入検討など)が、大学全体として継続的に取り組むべき課題であることが再確認されました。

## 専任教員担当の質問項目別平均

### 【令和7年度前期】



### 【令和7年度後期】



### 質問項目(図1、図2)

質問1:授業欠席回数

質問2:予習復習などに費やした時間

質問3:授業で重要なポイントが示されていたか

質問4:より学習したいと感じたか

質問5:聞き取りやすかったか

質問6:質問や意見が述べられやすかったか

質問7:授業内容は、自分にとって、有用性が感じられましたか

質問8:この授業の到達目標を達成できると思いますか

注) 質問1および質問2について、欠席回数や学習時間を具体的に尋ねた項目であり、5が最も望ましい(欠席が少ない、学習時間が長い)。

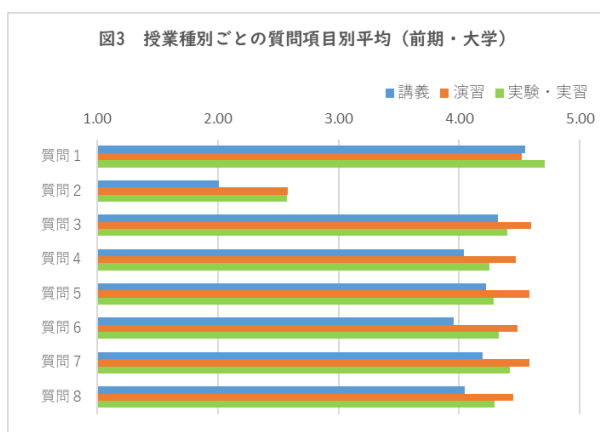
授業種別(講義・演習・実験実習)ごとに分析したところ、それぞれの教育形態の特性を反映した顕著な傾向が見られました。

授業種別ごとの傾向を見ると、講義科目では「要点の明確さ(質問 3)」が、演習・実験実習科目では「学習意欲の喚起(質問4)」と「有用性の実感(質問7)」がそれぞれ高く評価されています。一方で、すべての種別において「授業時間外学習時間」の短さが共通の課題として浮き彫りになっており、特に講義科目ではその傾向が顕著でした。今後は各授業形態に合わせた具体的な学習促進策の導入が求められます。

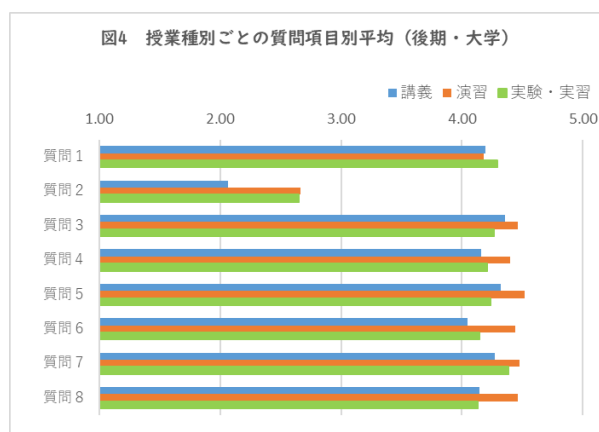
今後も授業アンケートの結果を継続的に分析し、学生の学習成果向上につながる授業改善を推進していきます。

## 専任教員担当の授業種別ごとの質問項目別平均

### 【令和7年度前期】



### 【令和7年度後期】



#### 質問項目 (図3、図4)

- 質問1:授業欠席回数
- 質問2:予習復習などに費やした時間
- 質問3:授業で重要ポイントが示されていたか
- 質問4:より学習したいと感じたか
- 質問5:聞き取りやすかったか
- 質問6:質問や意見が述べられやすかったか
- 質問7:授業内容は、自分にとって、有用性が感じられましたか
- 質問8:この授業の到達目標を達成できると思いますか

注) 質問1および質問2について、欠席回数や学習時間を具体的に尋ねた項目であり、5が最も望ましい(欠席が少ない、学習時間が長い)。